

## 総務部

### 「東日本大震災から考える」 (沖縄総合事務局の取組)

沖縄総合事務局では、東日本大震災から2年を迎えた中で、震災の記憶を呼び覚まし、震災の教訓を忘ることなく、被災地支援の取組の気運を高め

るとともに、県民の防災意識の向上を図ることを目的として、平成25年3月～4月にかけて、「東日本大震災に関連するパネル等の展示」、「災害対策

車両の展示」、「被災地の復興に向けた取組等を紹介する講演会」等、様々な取組を行いました。



防災備蓄食及び非常持ち出しセットの展示



東日本大震災関連のパネル、  
モニュメント等の展示



東北農業復興の動きを紹介するパネル展



東日本の世界遺産・城郭を紹介するパネル展



東北被災地への観光を呼びかける  
写真パネル展示会



東日本の動物園・水族館パネル展



災害に強い都市緑化樹木に関する講演会



被災地大船渡から「美味しい！楽しい！元気の町へようこそ！」講演会



災害対策車両（対策本部車、排水ポンプ車、照明車、標識車）の展示

沖縄総合事務局では、今後とも幅広い分野で、被災地の復興支援に向けて、総合力を発揮し、取り組むとともに、沖縄地域の振興や安全・安心な生活を支

える道路、港湾等主要インフラの形成、電力、石油・ガス等の供給、運輸・物流等に関する行政を総合的に担う立場から、様々な取組を通じ、引き続き沖縄

県民の安全安心の確保に寄与すべく、努めてまいります。

沖縄総合事務局における防災に関する情報は、当局HP  
(<http://www.ogb.go.jp/soumu/8871/index.html>) を御覧ください。



## 財務部

# 「地域密着型金融に関するシンポジウム in おきなわ」を開催

3月6日（水）、沖縄県立博物館・美術館において、財務部主催による「地域密着型金融に関するシンポジウム in おきなわ」が開催され、一般の方々を始め、金融機関、商工団体、行政機関など約100名の方々が参加されました。

このシンポジウムは、地域金融機関が、自らの地域密着型金融に関する取組内容等を発表することにより、地域密着型金融に関する知見・ノウハウの共有化等を目的に開催しており、今回で7回目となります。

シンポジウムでは、島尻内閣府大臣政務官の挨拶の後、特色ある取組として沖縄銀行の山城正保営業統括部執行役員部長から、「医療福祉分野への支援に向けた取組について」が報告されたほか、管外金融機関経営者からの取組紹介として、中国銀行の宮長雅人頭取から、「地域密着型金融の推進について」

が報告されました。

また今回は、新たな取組として、地域金融機関によるソリューションの実行事例について、企業経営者（借り手）の視点からの発表を行い、沖縄計測の玉城幸人社長から、「両コイル型磁気傾度計システムの開発について」が報告されました。

続いて、公認会計士の山内眞樹氏をコーディネーターに、玉城義昭氏（沖縄県銀行協会会長）、宮長雅人氏、玉城幸人氏、仲田秀光氏（那覇商工会議所専務理事）、城間貞氏（公認会計士）をパネリストとして、「中小企業の活力を引き出すため、地域金融機関に期待される役割」をテーマにパネルディスカッションが行われ、パネリストからは、「小さな企業にとって、金融機関は敷居が高い。ビジネスマナーの確認など、もう少し目線を低くしてもらえば、もっと活力

のある密な話ができる。」、「フェイス・トゥ・フェイスの取組を通して、企業のライフステージに応じた様々な課題を共有し、金融機関と企業とがともに工夫しながら、改善に向かって行くことが必要。」など金融機関のコンサルティング機能の今後の役割・課題などについて活発な意見が交わされました。



## 農林水産部

# 肉用牛改良に係る技術研修会の開催

3月12日（火）、那覇市内において、沖縄和牛ブランドの全国的な知名度アップや、更なる肉用牛改良の方向性を検討し、安定的な肉用牛経営を実現させることを目的に、沖縄県及び社団法人沖縄県家畜改良協会との共催で「肉用牛改良に係る技術研修会」を開催し、行政機関、沖縄県内肉用牛関係者の約60名の方々が参加されました。

本研修会では、「第10回全国和牛能力共進会から見た沖縄の和牛の評価」と題して、公益社団法人全国和牛登録協会参与で、第10回全国和牛能力共進会でも最終比較審査員も務められた池田和徳先生から、全国の上位出品牛と沖縄出品牛との比較や次回大会へ向けて留意点について講演をいたしました。講演の中で先生からは、「沖縄は上位を狙えるだけの素地はできているものと思っている。次回の第11回大会は、

平成29年度に宮城県で開催されるが、既にそれに向けた取組は行われており、まずは優良な母体をそろえることが重要である。」との指導をいただきました。

また、現地の取組として伊江村和牛改良組合からは、第10回全国和牛能力共進会に向けた取組や次回大会に向けての課題について発表をいただきました。

意見交換の中では、沖縄県内7つの和牛改良組合による取組状況報告とともに、「生産農家の技術や意識の向上を図り、5年後に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会では更なる上位入賞を狙いたい。」と力強い意見が出されました。



全国和牛登録協会 池田 参与



7和牛改良組合の取組発表及び意見交換の様子

## 経済産業部

## 「ものづくりフォーラム」を開催



3月5日（火）、沖縄産業支援センターにおいて、ものづくり中小企業者等の研究開発成果を効率的に事業化するための方策や広域連携及び異業種連携等による研究開発・ものづくりの重要性などの理解を深めていただくことを目的に、「ものづくりフォーラム」を開催しました。

本フォーラムは、平成22年度から実施している「沖縄ものづくり事業化支援プロジェクト」の一環で開催したもので、当該プロジェクトでは、①研究開発後の事業化サポート、②新規研究開発実施サポート、③販路開拓サポートなどを行っています。

今回のフォーラムでは、（株）en mono代表取締役 三木康司氏から、「マイクロモノづくり」による経営革新」と題した基調講演を行い、千差万別な商

品ニーズへの対応を可能とするモノづくりの考え方、クラウドファンディングによる効率的かつスピーディーな試作開発や市場ニーズの把握等について示唆をいただきました。

また、基調講演を行った三木氏、松本毅氏（大阪ガス株式会社 技術戦略部オーブン・イノベーション室 室長）、京井良彦氏（株式会社電通 ビジネス・クリエーション局ビジネス・デザイン室 チーフ・コミュニケーション・プランナー）

及び芝慶氏（株式会社新東通信東京本社 物販グループ チーム長）によるパネルディスカッションを行いました。その中で、「グローバルな大競争時代へ柔軟かつ効率的に対応していくために、多様なプレイヤーが異業種間や広域的な連携により継続的なイノベーションを創出していくことが重要である。」という御意見等、多様な視点からの活発な意見交換が行われました。



会場の様子

## 経済産業部

## 「先輩に聞きたい！女性起業家を囲んでの座談会」を開催



「起業したいけど、家庭との両立ができるかな。」「やりたいことはあるけれど、経営って難しそう。」…そんな起業の夢や不安を持つ女性のために、2月28日（木）、沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにて「先輩に聞きたい！女性起業家を囲んでの座談会」を開催しました。

沖縄県中小企業家同友会女性経営者部会「碧の会」から女性経営者8名、沖縄ガールズスクエア（女性の起業を応援するコミュニティースペース）等からサポーター4名の方々に御協力いただき、起業を目指す女性17名が参加しました。

はじめに、株式会社七和の与那覇依子会長から「経営者に必要な学び」についてお話をいただいた後、先輩、参加者、サポーターが3つのグループに分かれて意見交換を行いました。参加者から「将来出産したらと思うと、法人化して事業としてやっていくことに躊躇してしまう」、「どうすれば仕事の魅力をスタッフに伝えられるか」、「経営者には何が必要か」など、

日々の悩みや不安が語されました。先輩からは、結婚や出産などライフステージの変化に合わせながら事業に取り組んできた経験を踏まえた上で、「どんな状況になんでも対処できる強い経営の実現にはしっかりととした事業計画を立てることが必要。」「自分が提供する商品やサービスの価値を社員誰もが言葉で伝えられるような経営理念を持つことが重要。」などのアドバイスがありました。最後に、有限会社アンテナの石原地江代表取締役から、これから起業を目指す参加者のために激励の言葉を頂きました。

会場では、参加者同士で積極的に名刺交換をする姿が多く見られ、またアンケートには「たくさんのヒントとパワーをもらいました」、「少人数でお話ができたよかったです。」「今後もこのような会があれば参加したい。」といった感想が寄せられました。

女性が起業することで提供される商品やサービスが、社会的な需要を生み出

す例が増えています。沖縄総合事務局経済産業部では、様々な困難を乗り越え挑戦する女性起業家を、これからも応援します！



座談会の様子



赤ちゃん連れの参加者も

## 経済産業部

# 第5回沖縄感性・文化産業シンポジウムを開催



内閣府沖縄総合事務局では、沖縄の独特の感性をいかした音楽、伝統芸能等の文化を産業として振興すべく様々な取組を実施しています。その一環として3月8日（金）午後7時から沖縄県立博物館・美術館において、当局主催による「第5回沖縄感性・文化産業シンポジウム」を開催しました。

### 「第5回沖縄感性文化産業シンポジウム」の概要

今回のシンポジウムでは、沖縄の新たな観光資源としても期待されるエンターテイメントビジネスをテーマとして開催しました。

冒頭、当局の竹井次長から、「沖縄では、増加する外国人観光客や家族向けの魅力あるエンターテイメントの創出が求められており、そのため今回はエンターテイメントビジネスをテーマにしたこと」

などの主催者挨拶が述べされました。

第1部では、スペシャルトークとして、「日経エンタテインメント」編集委員の品田英雄氏から、「ライブエンターテイメントの今後の可能性」と題して、インターネットの普及やグローバル化によって大きく変化しているライブエンターテイメントがビジネスとして大きく伸びている現状について講演していただきました。

第2部ではパネルディスカッションを行い、オフィスユニゾン代表三枝克之氏の進行により、沖縄県産業振興公PMの風間康久氏から、「沖縄文化等コンテンツファンドにおける投資の課題と可能性」、(株)エーシーオー沖縄下山久氏から、「沖縄県内のエンターテイメントビジネスの課題・問題点」、文化庁登録著作権相談員高木泰三氏から、「ライブエンターテイメントビジネスで生じる著作権

問題とその解決策」、沖縄県文化観光スポーツ部長(当時)平田大一氏から、「沖縄県の文化振興の取り組み」、品田英雄氏からは「沖縄県におけるエンターテイメントビジネスの可能性について」それぞれの立場から発言していただきました。



第1部開催前には「Tee ! Tee ! Tee ! Project」による「ノンバーバルパフォーマンス」※が披露されました。

※台詞を用いず、リズム、アクション、表情、ダンス、音楽などを使って繰り広げるパフォーマンスで、韓国の「ナント」や米国の「ブルーマン」が有名。

## 開発建設部

# 平良港（漲水地区）複合一貫輸送ターミナル（改良）事業の整備に着手



3月16日（土）、宮古島市と内閣府沖縄総合事務局平良港湾事務所主催による、平良港（漲水地区）複合一貫輸送ターミナル（改良）事業の起工式を開催しました。当日は、多数の来賓・事業関係者が出席の下、島尻安伊子内閣府大臣政務官が挨拶を行い、平良隆宮古島市議会議長の祝辞、平良港湾事務所による事業概要説明が行われた後、国及び宮古島市の関係者を交えてフローティングドック（ケーソン製作用の作業台船）の上で工事着工の鍵入れが執り行われました。

本事業は、平良港漲水地区の課題である、岸壁の向きが冬場の卓越風である北東風に対してほぼ直角であるため、特に風が強い冬場は大型船の入出港が困難であること、港湾施設の老朽化が進んでいること、ふ頭用地が狭隘なため非効率な荷役作業を強いられているこ

と、さらに耐震岸壁が存在しないため、大規模地震時の緊急物資等の輸送や災害復旧への対応ができないこと、この4つの課題に対応するために実施するものです。

本事業により、岸壁法線を北東風に對して平行方向とすることで、着岸時に横風を受けにくくなります。それから、埋立により十分な荷さばき地を確保し、安全で効率的な荷役が可能となります。さらに、岸壁を耐震化し緑地や臨港道路を隣接して整備することにより、大規模地震時の物資輸送や災害復旧への対応が可能となります。平成29年春頃には供用開始を予定しており、宮古圏域の人々の安心・安全を確保するとともに、宮古圏域の一層の振興に大きく寄与するものと期待されています。



## 開発建設部

### 「足場からの墜落・転落災害防止に関する説明会」を開催

建設業における死亡災害の中で、墜落・転落を原因とするものは、長期的には減少傾向にあるものの、依然として高い水準となっています。

このような中、足場からの墜落・転落災害の防止については、従来から、厚生労働省において、労働安全衛生規則等に基づき対応がなされており、平成24年2月には、同省において、「足場からの墜落・転落災害防止総合対策推進要綱（以下「要綱」という。）」が作成され、国土交通省に対し、建設業団体への周知等を要請されていたところです。

これを受け沖縄総合事務局では、同災害の防止に資するため、2月14日（木）に、沖縄労働局及び全国仮設安全事業協同組合から講師を招いて、「足場からの墜落・転落災害防止に関する説明会」を開催しました。

説明会では、過去、手すり等を設置していたにも関わらず墜落災害で死亡した事例もあることから対策強化が必要となった経緯の説明があり、その強化策や足場の安全点検等の充実を図るために措置等、要綱に盛り込まれた内容について説明がありました。

また、厚労省の労働安全衛生規則と国土交通省の工事共通仕様書等の解説が行われ、足場については、2省の基準を満たすことが求められていること、国土交通省では、墜落災害防止対策に必要な部材の設置が義務付けられており、積算上も単価として計上していることなどの説明がありました。

説明会には、県内の建設業者71名が参加し、各講師の説明を熱心に聴講していました。特に、要綱に対応した足場を実際に組んでの実演講座では、「先の座学講座の内容を直接目で見ること

ができ、より理解が深まった。」と好評でした。



座学



実演

## 運輸部

### 「まちま～いセミナー」を開催

近年の沖縄観光は、リピーターや個人旅行が増加するとともに、観光客のニーズも多様化・高度化してきています。しかしながら、県内の各地域において、観光客を効果的に取り込むことができず、過型観光に悩んでいる地域が多いのが現状であり、観光地や商店街に賑わいを取り戻すためには、回遊率を高め、長期滞在化を促進する必要があります。「まち歩き観光」はその手法の一つで、地域に住んでいる人々の暮らしづくり、それに反映している地域の歴史、さらには地域の人々との交流を直接体験してもらうものです。地域活性化策としても注目され、特別な施設整備が不要なこともあります。全国各地で展開されています。県内においても、「那覇まちま～い」を始めとして、その取組が広がりつつあります。

沖縄総合事務局運輸部では、3月13日（水）に「まち歩き観光」に取り組んでいる地域、これから取り組みたいと考えて

いる地域を対象として、「まち歩き観光」の先進的な取組を実践している長崎市から講師として、一般社団法人長崎国際観光コンベンション協会観光推進統括部長兼MICE振興部長の股張一男氏をお招きし、「まち歩き観光」のノウハウを伝授いただくためのセミナーを開催しました。

股張氏は、平成18年の日本で初めてのまち歩き博覧会「長崎さるく博'06」の立ち上げからまち歩きコースの設定やマップ、ガイドマニュアル作り等の業務に長崎市職員として従事され、御自身でもガイドとして長崎のまちの魅力及び情報を発信しておられ、まち歩きのスペシャリストでいらっしゃいます。

講演の中で股張氏は、観光はまちづくりであること、地域の強みを掘り起こし磨き上げること、機会をいかした企画をすること、関係者の連携や役割分担を明確化し市民を主体とし行政は黒子役に

徹すること、他地域の取組をまねる・学ぶこと、自治体・観光協会・市民のそれぞれに本気で取り組む人々がいることの重要性等について、御自身の経験を織り交ぜながら説明されました。

セミナーには各地の地方自治体及び観光協会等の担当者31名が参加し、セミナー終了後の質疑でも活発な意見交換が行われ、関心の高さがうかがえました。

今後も、県内にまち歩き観光が広がりを見せ、滞在型観光の推進が図られるよう取り組んでまいります。



## 運輸部

# 交通エコロジー教室の開催

「環境にやさしい交通を学ぼう」をテーマにEVバスを活用し交通エコロジー教室を開催



沖縄総合事務局では、「環境にやさしい交通を学ぼう」をテーマに、地球温暖化問題を知り、環境にやさしい生活を習慣付けるためのきっかけとなることを目的に交通エコロジー教室を開催しました。

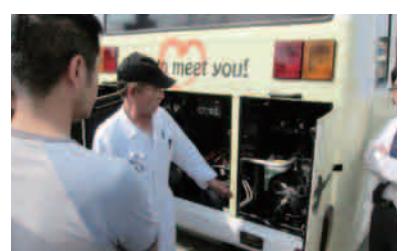
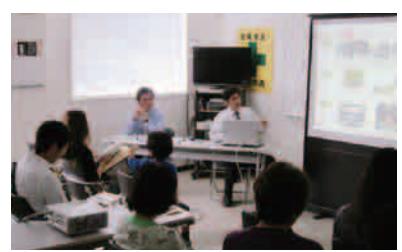
今回は、公益財団法人沖縄産業振興公社や、那覇バス株式会社の協力の下、電気バス「ガージュ号」を活用し、2月2日（土）に那覇バス新川営業所にて開催しました。

当日は、環境団体や親子連れなど多数の方々が参加され、充電施設や乗車体験を熱心に行い、色々な気付きの声が上がっていました。

教室終了後に行われたアンケートでは、「普段見学する機会のないEVバスを見ることができて良かった。」、「実際に乗車してみると、振動が少なくて良かった。」などの声がありました。

沖縄総合事務局としましては、今後も「交通エコロジー教室」の開催を通じて、より多くの皆様に環境にやさしい交通に

についての理解を深めていただくとともに、環境問題について積極的に取り組んでいきたいと思います。



## 独占禁止法相談ネットワークでは 皆様からの御相談を受け付けています。

### 気軽に相談 身近な窓口

公正取引委員会が商工会議所及び商工会との連携により運営している「独占禁止法相談ネットワーク」は、中小事業者及び事業者団体の皆さんに身近な相談窓口です。全国の商工会議所・商工会に相談窓口を設け、独占禁止法及び下請法に関する、さまざまな御相談を受け付けています。御相談は、公正取引委員会へと迅速に取り次がれ、適切な対処、的確な対応をいたします。

**取引先から下請代金を一方的に減額された、  
事業者団体での情報交換がどんな場合に問題になるのか**  
など、困ったことや疑問があったら…。



問い合わせ先

お近くの商工会議所・商工会 又は  
内閣府沖縄総合事務局総務部公正取引室（電話098-866-0049）